

リレー連載



山口 章平氏 (やまぐち・しょうへい) 昭和55年生まれ。神戸大卒。技術士。建設技術研究所 東京本社交通システム部

近年、ICT(情報通信技術)の発達が目覚ましい。ICTは、環境の削減(環境対策)②多発状態や機械の動きなど、輸送への対応(運行効率)③確保(品質管理)④輸送時の細かな温度管理(品質管理)⑤などが大きな経営課題。ICTの活用が課題解決に、効果を発揮する可能性が。環境対策では、自動車の自己診断機能を利用したエコドライブ支援システムがある。エンジンの回転数など車両データからドライバーのエコドライブの操作を自動で分析する。運行管理者は自社

第11回

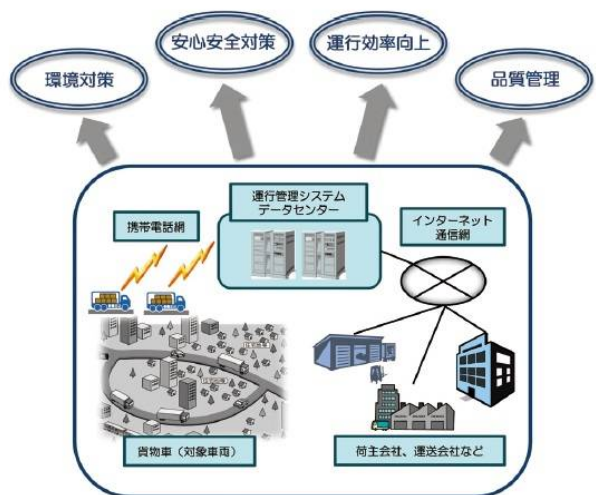
事業者のICT活用方法は

線通信機能付きのデジタルタコグラフ(運行記録器)に蓄積し、リアルタイムに運行管理者に送信するシステムがある。ドライバーが危険な運転をすると、運行管理者

のドライバーが環境に優しい運転をしているかどうかを定量的に評価し、ドライバー教育に役立てることができる。安心・安全対策では、車両の加減速データを無追従する車間自動制御システムも、ドライバーの負担を軽減し、安心・安全を高めるに違いない。運行効率向上では、車両に装着したセンサーがGPS(全球測位システム)信号を受信し、運行管理者が営業所で走行ルートと走行時間、現在位置を把握できるシステムがある。これにより、停車時間を把握して荷降ろしなどの作業状況確認、次の配送先への到着予定時刻の予測、誤配防止が可能になる。車両の現在地が把握できていれば、荷主がルタコグラフ(運行記録器)に蓄積し、リアルタイムに運行管理者に送信するシステムがある。ドライバーが危険な運転をすると、運行管理者

率的な配車・運行計画の策定に生かせる。厳格な温度管理に活用できる。厳格な温度管理が必要な貨物は、従来の生鮮食品に加え冷凍食品、感染症ワクチンや関節リウマチの治療薬である生物学的製剤のような医薬品、とてより大きな効果を発揮する。ICTを活用するためには、機器の導入費用のほか、通信料金などのコストが掛かる。国土交通省はICTの普及に注力しており、事故防止対策支援推進事業として、デジタコやドライブレコーダーなど国交省が認定した機器(ホームページ)の取得経費の半額を補助する支援を実施している。

ICT活用した貨物車運行管理イメージ



る。国土交通省はICTの普及に注力しており、事故防止対策支援推進事業として、デジタコやドライブレコーダーなど国交省が認定した機器(ホームページ)の取得経費の半額を補助する支援を実施している。

率的な配車・運行計画の策定に生かせる。厳格な温度管理に活用できる。厳格な温度管理が必要な貨物は、従来の生鮮食品に加え冷凍食品、感染症ワクチンや関節リウマチの治療薬である生物学的製剤のような医薬品、とてより大きな効果を発揮する。ICTを活用するためには、機器の導入費用のほか、通信料金などのコストが掛かる。国土交通省はICTの普及に注力しており、事故防止対策支援推進事業として、デジタコやドライブレコーダーなど国交省が認定した機器(ホームページ)の取得経費の半額を補助する支援を実施している。

率的な配車・運行計画の策定に生かせる。厳格な温度管理に活用できる。厳格な温度管理が必要な貨物は、従来の生鮮食品に加え冷凍食品、感染症ワクチンや関節リウマチの治療薬である生物学的製剤のような医薬品、とてより大きな効果を発揮する。ICTを活用するためには、機器の導入費用のほか、通信料金などのコストが掛かる。国土交通省はICTの普及に注力しており、事故防止対策支援推進事業として、デジタコやドライブレコーダーなど国交省が認定した機器(ホームページ)の取得経費の半額を補助する支援を実施している。